

November 9, 2020

**【前日の為替概況】ドル 弱含み、「バイデン氏優勢でドル売り」の構図に**

6日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続落。終値は103.35円と前営業日NY終値(103.49円)と比べて14銭程度のドル安水準だった。米大統領選で当選に必要な選挙人の獲得に近づいている民主党のバイデン前副大統領が、大接戦のジョージア州でトランプ大統領の得票数を逆転したと伝わると、「バイデン氏優勢でドル売り」の構図となり、20時30分前に一時103.18円と3月12日以来約8カ月ぶりの安値を付けた。ただ、103.00-10円に観測されている買いオーダーにサポートとされると下げ渋る展開に。米労働省がこの日発表した10月米雇用統計で、非農業部門雇用者数が前月比63.8万人増と予想の60.0万人増を上回り、失業率が6.9%と予想の7.7%より強い内容となったこともドル買い戻しを誘った。

FOXニュースが「トランプ氏は米大統領選の敗北を受け入れへ」と報じると、一時103.72円付近まで値を戻す場面があったが、トランプ陣営が「選挙はまだ終わっていない」との声明を発表し、この報道を否定するとドル買いの勢いは後退。アジア時間に付けた日通し高値103.76円を上抜けることが出来ず、103.22円付近まで再び弱含んだ。

ユーロドルは4日続伸。終値は1.1874ドルと前営業日NY終値(1.1826ドル)と比べて0.0048ドル程度のユーロ高水準だった。米大統領選でバイデン氏が勝利に近づき、米政治の不透明感が後退するとの見方が強まった。投資家のリスク志向が高まりユーロ買い・ドル売りが優勢になると、一時1.1891ドルと9月15日以来の高値を付けた。良好な米雇用統計を受けたドル買いも限定的で、下押しは1.1851ドル付近にとどまった。

ユーロ円は反発。終値は122.71円と前営業日NY終値(122.39円)と比べて32銭程度のユーロ高水準。0時30分前に一時122.99円と日通し高値を更新した。

**【本日の東京為替見通し】トランプ後を見据えた動き、英の立場は厳しくポンドの値動きに要警戒**

本日のドル円は売り場探しとなるか。ようやく、週末に米大統領選挙でバイデン民主党候補が第46代大統領に就任することが決定された。トランプ現大統領が法廷闘争まで持ち込もうとしているが、すでにトランプ支持のマスコミ(FOXテレビなど)だけでなく、有力共和党議員も沈んでいく泥船から脱出をはかり、トランプ氏の元から離れ始めている。市場も法廷闘争などよりも、この後のバイデン政権の要職を誰が務めるのかに注目が集まっている。

特に金融市場にとって重要なのは新財務長官になるが、バイデン氏は今まで男性が常に財務長官だったことで、新財務長官は女性から選ぶのではとの予想があり、ブレイナードFRB理事が最有力との声がある。他にもラスキン元財務副長官、男性ではファーガソン元FRB副議長、ボスティック米アトランタ連銀総裁などのFRB関係者の名前が挙がっている。また、民主党大統領選の候補にも挙がったウォーレン議員などの名前も一部では噂されている。最有力のブレイナード氏はドル安論者という声もあり、来年の新政権発足前に市場はドル売りを仕掛けていく可能性もありそうだ。

ドル円以上にバイデン氏の勝利で注目が集まるのはポンドの値動きだろう。ジョンソン英首相は英・欧州連合(EU)間の通商交渉を米大統領選挙が終了するまで待っていたが、ジョンソン首相とは蜜月関係にあったトランプ大統領が敗北したことは英国には痛手だ。しかもジョンソン首相は、かつてオバマ前首相やクリントン元国務長官に対して非礼な発言を繰り返していたこともあり、当時副大統領だったバイデン氏との関係も決して良くない。

また、バイデン氏はアイルランド系でもあることで、「ブレグジットにより『ベルファスト合意』がもたらした北アイルランドの平和を犠牲にできない」と述べ、アイルランドと北アイルランドの検問を避けるべきとしている。もちろん、バイデン氏が英国の内政干渉を行うことはできないが、EUと通商合意なき離脱を強引に進めても、米国との通商交渉も英国の思い描いていたような進展が見られない可能性が高まり、急遽EUとの交渉が進む可能性もあるだろう。すでに、バラッカー・アイルランド副首相は「EUにとっては交渉が優位に進む可能性が高まった」と述べているとも週末に伝わっている。大統領就任は来年になるが、通商交渉の期限は今月中旬までとされていることで英EU間交渉によるポンドの動きが再び注目されそうだ。

またポンド以外にもバイデン氏はトルコに対して強硬姿勢をとることが予想され、ここ連日最安値を更新しているトルコリラの値動きにも目を配っておきたい。

**【本日の重要指標】** ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

- 08:50 ◇ 日銀金融政策決定会合における主な意見（10月28-29日分）
- 14:00 ◇ 9月景気動向指数速報値（予想：先行 92.7／一致 80.5）

## &lt;海外&gt;

- 15:45 ◇ 10月スイス失業率（季節調整前、予想：3.3%）
- 16:00 ◇ 9月独貿易収支（予想：160億ユーロの黒字）
- 16:00 ◇ 9月独経常収支（予想：190億ユーロの黒字）
- 17:00 ◎ レーン・フィンランド中銀総裁、講演
- 18:25 ◎ ラガルド欧州中央銀行（ECB）総裁、講演
- 19:35 ◎ ベイリー英中銀（BOE）総裁、講演
- 21:00 ◎ 10月メキシコ消費者物価指数（CPI、予想：前月比 0.57%）
- 21:00 ◎ メルシュ ECB 専務理事、講演
- 23:00 ◎ ホールデン英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 10日 03:00 ◎ 米財務省、3年債入札
- 10日 03:30 ◎ メスター米クリーブランド連銀総裁、カンファレンスに参加

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

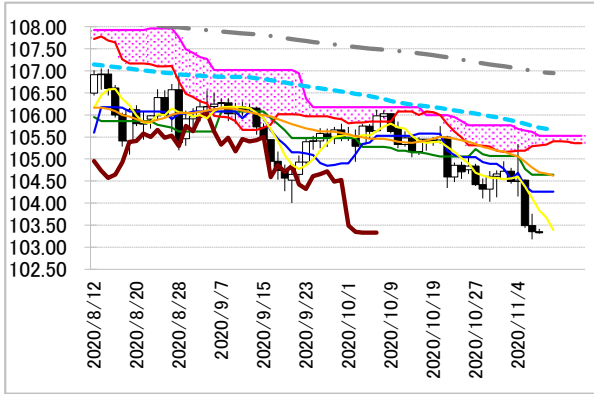
※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

- 6日 08:57 トランプ米大統領  
「郵便投票は腐敗のシステム」  
「バイデン氏が主張した州のすべては、有権者詐欺と州選挙詐欺で異議申し立てを受けるだろう」  
「我々は勝つ！アメリカファースト」  
「合法的な票を集計すれば私はたやすく勝利」
- 7日 03:39  
「選挙関連の法的課題を追求。国家のために戦いを決してあきらめない」
- 6日 10:27 菅首相  
「為替の安定は極めて重要」
- 6日 15:12 独 Ifo 経済研究所  
「独産業の生産予測、今後数カ月は弱まるだろう」
- 6日 16:22 加藤官房長官  
「GPIF、長期的にみても着実に運用収益が積み上げられている」  
「経済は持ち直しの動き(株高との関連で)」
- 6日 22:54 ラムスデン BOE 副総裁  
ラムスデン BOE(イングランド銀行)副総裁  
「英失業はすでにかかなり高まっている」  
「労働市場の状況は将来の政策決定の重要な決定要因」
- 6日 23:50 トランプ陣営  
「選挙はまだ終わっていない」
- 7日 00:12 クドロー米国家経済会議(NEC)委員長  
「平和的な政権交代が行われると考えている」  
「トランプ大統領、マコネル上院院内総務(共和党)、ムニューシン米財務長官は依然として米景気対策合意を望んでいる」
- 7日 00:49 米ジョージア州当局者  
「米大統領選における得票を再集計する」

※時間は日本時間

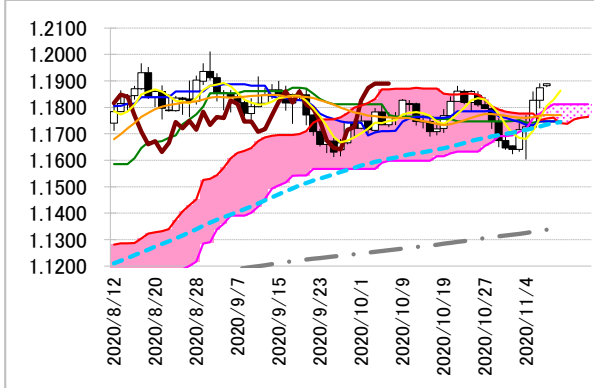
## 〔日足一目均衡表分析〕



### <ドル円=下サイドへの警戒感は高いまま>

陰線引け。103 円後半で上値を抑えられ、103 円前半まで下値を広げて約 8 カ月ぶりの安値を更新した。移動平均線は短・中・長期とも下向きであり、日足一目均衡表も三役逆転（転換線は基準線を下回り、遅行スパンが実線の下で推移、雲の下で引け）が点灯し、下サイドへの警戒感の高いまま。3 月 12 日安値 103.09 円を念頭に、大台をクリアに割り込むようだと下げ足を速めることになりそうだ。

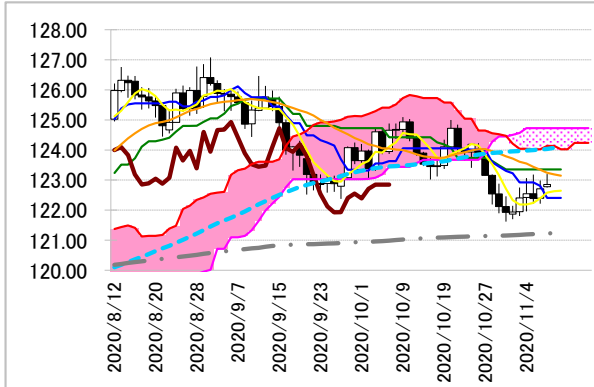
レジスタンス 1	104.00(9 月 21 日安値)
前日終値	103.35
サポート 1	102.02(3/10 安値)
サポート 2	101.19(3/9 安値)



### <ユーロドル=上昇中の雲の上限が支持>

陽線引け。1.18 ドル割れで下げ止まり、9 月半ば以来の高値となる 1.19 ドル手前まで強含み、4 手連続の陽線引けとなった。日足一目均衡表・雲のねじれが 1.17 ドル台で発生し、その水準をしっかりと上抜けてきており、上昇トレンドを後押ししている。1.1790 ドル台まで上昇してきた一目・雲の上限をバックに押し目買いスタンスは継続。1.19 ドル前半の 9 月 2 日高値を上抜けると目立った抵抗水準もなく、上げ足を速めることになるか。

レジスタンス 1	1.1929(9/2 高値)
前日終値	1.1874
サポート 1	1.1796(日足一目均衡表・雲の上限)

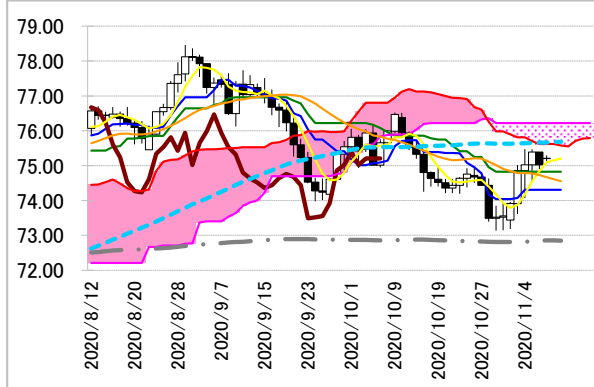


### <ユーロ円=基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。122 円前半で支えられ 123 円手前まで反発した。日足一目均衡表は三役逆転（転換線は基準線を下回り、遅行スパンが実線の下で推移、雲の下で引け）の強い売りシグナルが点灯中ではあるが、今月に入り下値を切り上げつつある。122 円半ばまで低下した一目・転換線と 123 円前半の同基準線を睨みながら次の方向性を探る展開か。

本日は三役逆転を頼りに戻り売りスタンスで臨みながらも、基準線を上抜けた場合は一旦手仕舞い。

レジスタンス 1	123.36(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	122.71
サポート 1	121.96(11/4 安値)



### <豪ドル円=ショートは 90 日線超えで手仕舞い>

陰線引け。4・5 日高値の手前で伸び悩み、一時 75 円割れまで下押す場面があった。7 日ぶりの陰線引けとなったが、一目・転換線や基準線を上回って引けていることで、73 円前半から上昇した局面の調整の域を出ていない。上げたところは先週高値 75.48 円をバックに売りたいが、90 日線を上回るようであれば手仕舞い。

レジスタンス 1	75.66(90 日移動平均線)
前日終値	75.02
サポート 1	74.31(日足一目均衡表・転換線)

